議会だより

やとみ

No.19

2010年
11月発行

10/10 鯏浦秋祭り（弥富神社）

平成22年9月定例会

発行●弥富市議会　　編集●議会広報編集特別委員会

〒498-8501　愛知県弥富市前ケ須町南本田335　☎(0567)65-1111　FAX(0567)67-4011

▶育てたイモの収穫を喜ぶ十四山東部小学校児童ら【10月15日・同校周辺の畑にて】

9月 定例会

9月定例会を8月25日から9月21日までの会期で開きました。

市長から21年度の歳入歳出決算認定など16議案が、議員から意見書など4議案が提出され、原案通り可決しました。

また固定資産評価審査委員の選任と教育委員の任命に同意し、人権擁護委員候補者を適任であると決定しました。

一般質問には10人が登壇しました。

決算特別委員会

決算に関する事項審査のため設置しました。

委員長　武田　正樹
副委員長　炭竃　ふく代
委　員　三宮　十五郎
〃　安井　光子
〃　杉浦　敏
〃　渡邉　昶
〃　山本　芳照
〃　佐藤　博
〃　山口　敏子

22年度一般会計補正予算

（仮称）第二桜小学校【☞】の追加土地購入費7千80万円を含む、1億890万円を追加補正するものです。

☞ 桜小学校マンモス化対策となる新校で、25年度当初開校を目指し、旧弥富中学校跡地（＝平島町地内）で整備が進んでいる。

採決
質疑・討論なく全員賛成

主な内容

定例会の審議内容
議案質疑……………2～3
一般質問（10人）…4～13
やとみフラッシュ……14

表紙の説明

鯏浦地区の秋祭りが10月10日、弥富神社で行われました。

10地区から出発した神楽屋形や石取車等が、笛や太鼓を鳴り響かせながら神社に集結。

境内では、獅子舞などの伝統芸能が奉納され、見学者らの盛んな拍手を受けていました。

９月定例会

21年度一般会計歳入歳出決算認定

一般会計の決算を認定するもので、歳入は147億３千57万円、歳出は139億９千256万円です。

質疑

質疑（安井議員）

(1) 高齢者給食サービス【 】は、総合福祉センターしか利用券が使えないのは、不公平ではないか。

市内飲食店で使用できるようにしてはどうか。

市が定める要件を満たした一人暮らしの高齢者等を対象に、昼食宅配を主に行うサービス。

宅配に代えて、利用券（＝１カ月千円分。総合福祉センター喫茶室で利用可）を選択できる。

(2) 児童クラブを聞く。

① 待機児童の有無と、定員を増やせないか。

② 学校から直接、児童館へ通う取り組みをはじめた栄南児童館の状況は。

③ （前述②を）他学区に広げてほしいがどうか。

答弁（介護高齢課長）

(1) 初期の目的、事業効果等を検証し、今後は配食サービス充実を図っていくことを検証していきたい。

答弁（児童課長）

(2)① 東部児童クラブで２人待機。定員は弥生10、白鳥２、十四山東部は１人増やし、努力している。

(2)② 現在１・３・４年生各３人の９人が利用している。

(2)③ 栄南児童館の現状を見守りながら、慎重に今回の試行を検討していきたい。

質疑（三宮議員）

決算について聞く。

(1) 健全化判断比率報告書【 】の市の指標は、全国的に見ると非常によいが、軽く考えていると借金がどんどん膨らむのではないか。

自治体財政の健全化を示す４つの指標。

(2) 施設の大規模修理は計画的に進めるべきでないか。

(3) 事業計画や財政計画を長いサイクルで考えることが必要ではないか。

答弁（市長）

(1) 借金は活用し、健全財政比率を自分たちで物差しを置きながら、行政運営していけばいいと思っている。

答弁（総務課長）

(2) 先進市の情報を収集し、調査、検討課題にしたい。

(3) 地方を取り巻く変動が大きいため、しばらくは３年スパンを考えている。

討論

賛成討論（杉浦議員）

必要な人に必要な支援ができるバランスの取れた市政の一層の発展を求め、賛成とする。

採決

全員賛成で可決

固定資産評価審査委員

任期満了に伴い、継続選任に同意しました。

横井　徹　氏（62歳・東蜆）

教育委員

服部友久氏退任に伴い、後任者任命に同意しました。

鵜石芳樹　氏（65歳・鯏浦町）

人権擁護委員

任期満了に伴い、継続を適任であると決定しました。

早川クニ子　氏（65歳・坂中地）

意見書の提出

30人以下学級の実現と義務教育費国庫負担制度拡充を求める意見書

（総理・総務・財務・文部科学大臣、内閣官房長官、衆議院・参議院議長に提出）

国の私学助成の増額と拡充に関する意見書

（総理・総務・財務・文部科学大臣に提出）

県の私学助成の増額と拡充に関する意見書

（県知事に提出）

12月定例会の開催日程(予定)

期　日	日　　程	放映予定
11月26日（金）	本会議（議案説明など）	
12月８日（水）	本会議（一般質問）	○
9日（木）	本会議（一般質問）	○
10日（金）	本会議（議案質疑）	
13日（月）	建設経済委員会	
14日（火）	厚生文教委員会	
15日（水）	総務委員会	
20日（月）	本会議(委員長報告・討論・採決)	

～ケーブルテレビ中継～
午前10時～会議終了まで(録画放映は当日午後７時～予定)

※日程は、変更になる場合もありますのでご了承ください。

三宮 十五郎 議員

障害者手当を以前の状態に戻すよう、県に要請を

問 福祉について聞く。

(1) 県在宅重度障害者手当【☞】を以前の状態に回復するよう、県に求めてほしいがどうか。

☞ 在宅の障害者への手当。月7千円と16,100円の2種類があり、受給には所得等に制限がある。
20年度より、65歳以上の人が新たに手帳を取得した場合、支給額月7千円の「第2種」に該当しても、支給対象外となった。

(2) 高齢者や障害者が安心して暮らすため、国に(各種福祉)制度改善や努力を強く要請してほしいがどうか。

(3) 介護認定者に、身体障害者手帳(=以下「手帳」)を取得する条件を満たした人が、かなりいると思う。
現在の介護認定者の手帳取得者の割合と、未取得者に対する取得支援はどう行っているのか。

(4) (手帳取得に必要な、医師が作成する診断書発行に伴う)医師会の協力、行政のサポートに尽力してほしいがどうか。

(5) 国民健康保険税減免は、その世帯の(前年)年間所得が33万円以下でなければならず【☞】、(生活保護基準であっても)対象にしないのか。

☞ 市の減免規定の一つ。適用には①前年の世帯所得が33万円以下②申請前の3カ月間の平均収入が一定以下の場合—の①②両方を満たす必要があったが、9月より①は廃止された。

(6) 3障害(=身体・知的・精神)を同一(サービス基準)に、という法の趣旨に沿うよう、(精神障害者医療)制度の改善に尽力してほしいがどうか。

(7) ハンディを持った人が、安心して(助成制度等を)活用できる仕組みに改善してほしいがどうか。

市長会等で提案したい

答 **市長**

(1) 西尾張9市の市長会、県・市の懇談会等で、市の議案として提出していきたい。

(2) さまざまな社会保障問題について、県、国に対しいろんな角度から要望していきたい。

答 **介護高齢課長**

(3) 要介護認定者847人のうち、重度の障害者は213人、25%である。
介護認定者の中に(ほかにも)手帳交付対象者もいるので、今後はその旨を本人に伝え、交付を希望する場合は、申請してもらうよう指導していく。

答 **民生部長**

(4) 医師会と(必要に応じ、国の基準通りに診断書を作成するよう)調整をする。
また(診断書を発行する)指定医ができるかを調整する。

(5) 9月から、(前年所得要件を廃止し)直近の3カ月間の収入が生活保護基準(の1.1倍)を下回る人は、減免対象にする。

(6) 今後、(県等への要望を)検討していく。

答 **福祉課長**

(7) 手帳交付時に、その人の障害区分に応じた該当する支援を説明し、申請漏れのないようにしている。

炭　竃　ふく代　議員

子ども向けの任意ワクチン接種に公費助成を

問　ヒブ予防ワクチンと小児用肺炎球菌ワクチン【=関連記事7面・☞】の公費助成について聞く。

☞①ヒブと②肺炎球菌は細菌性髄膜炎を起こす原因菌で、全国で年間千人近くが発症し、乳幼児が罹患しやすい。ワクチンは任意接種で健康保険は使えず、接種回数は年齢によって異なる。①②ともに1～4回接種で、1回の接種費用は①は8千円、②は1万円程度。

(1)　病院や母親教室などで、細菌性髄膜炎の情報を周知してほしいがどうか。

(2)　名古屋市は、ヒブワクチンを10月より助成する。ワクチン助成を市も積極的に取り組むべきと考えるがどうか。

一定支援できないか考えたい

答　健康推進課長

(1)　ワクチンの内容等を何らかの形で市民に知ってもらうよう、いろんな方法を考えたい。

答　市長

(2)　ワクチンに対する必要性は十分認めるが、一方では大きな財源負担がある。

子どもの重症リスクを回避するため、一定の支援ができないかを今後、医師会、他市町村ともよく協議しながら考えていきたい。

子宮頸がんワクチン助成実施を

問　乳がん、子宮頸（けい）がん検診クーポン（=以下「クーポン事業」）などについて聞く。

(1)　子宮頸がんワクチン【☞】助成を、市はどんな方向で実施する考えか。

☞性交渉によるウイルス感染が主な原因とされ、年間1万人以上が発症。10歳代前半のワクチン接種が効果的とされ、任意接種で健康保険は使えない。半年間に3回接種で費用は総額5万円程度。

(2)　クーポン事業を継続してほしいがどうか。

(3)　国の財政措置がなくなったら、クーポン事業を行わないのか。

23年度に補助を実施したい

答　市長

(1)　10月から（市単独助成を）開始する予定だったが、国が23年度予算化を示したので、23年度に（実施を）延ばした。

国、県、市町村の役割分担が明確になった場合に、市として予算を組み、補助を実施したい。

答　健康推進課長

(2)　21年度は全額国の補助だったが、22年度は2分の1（補助）、23年度以降は現在未定である。

5年間事業が継続できるよう、市長会等を通じ国に財政措置を要望しており、国の支援に沿って23年度も行っていきたい。

(3)　5年間継続しないと不公平が生じる。市独自でも25年度まで継続したい。

この場合は検診システムを見直し、費用削減を図って行っていきたい。

山本芳照 議員

職員のあいさつ運動の結果 どんな成果があったのか

問 職員のあいさつ運動の結果、どんな成果があったか。

市民から一定評価を得たと思う

答 市長

私は就任以来「市役所とは、市民のために役に立つ所でなければならない」と、職員の意識改革を常に求めてきた。意識改革の基本は、あいさつにあると思う。

運動という大それたことはしていないが、市民から（職員の意識向上に）一定評価を得ていると思っている。

金魚等のブランドを守る方策は

問 特産品の米、金魚、文鳥の今後の取り組みを聞く。

(1) 市のブランド商品を守ることは、大変重要なことではないか。

(2) 愛西市にある佐屋高校は、アヒルを使って米づくりを行っている。

同校とタイアップし、（生徒に）金魚、文鳥飼育を学んでもらってはどうか。

23年度から観光課でPRしたい

答 市長

(1) 今、地場産業や歴史をPRする課が、各所管にまたがっている。

23年度からの組織改編で観光課を設け、各方面で活動している団体等とも連携しながら市をPRしていきたい。

答 農政課長

(2) 金魚、文鳥の担い手育成や後継者不足に関心を持ってもらうよう、今後、同校と協議したい。

問 再任用職員は、1年くらいの短期間で異動が発生している。経験を十分生かして活用すべきではないか。

例えばコミュニティ推進協議会（=以下「コミ」）に組み入れてはどうか。

答 総務部長

22年度、定年退職した職員を、十四山地区コミ事務局として、兼務で任命している。

再任用については、適材適所の人事配置に努めていきたい。コミ事務局の兼務も視野に入れ、23年度も考えていきたい。

職員の提案制度の環境づくりを

問 職員の提案制度の取り組みについて、意見を出しやすい環境づくりが一番大事だろうと思うがどうか。

実施要綱策定を進めている

答 総務部長

提案制度の実施要綱を定めるよう、事務的に準備を進めている。

安井光子 議員

高齢者の肺炎予防ワクチンの公費助成の実現を

問 高齢者の肺炎球菌ワクチン【=関連記事5面・👉】の公費助成を、県では飛島村を含み9市町村が（予定または）実施している。

市も実現してほしいがどうか。

👉 高齢者の肺炎の最大原因となる「肺炎球菌」から、感染を予防する任意接種のワクチン。効果は5年とされ、接種回数1回で費用は約8千円。

小児用ワクチンを優先したい

答 健康推進課長

小児用ワクチン助成を優先したいと考えている。

子どものための保育所運営を

問 保育所について聞く。

(1) 1歳児18人が一つの部屋になっている保育所もある。質のよい保育体制に改善してほしいがどうか。

(2) 4月以降、途中入所希望者、臨時採用職員は何人か。

(3) 延長保育の場合、保育士配置基準は昼間と同じか。

(4) 保育士の非正規化が進み、臨時を採用しなければ保育所運営が回っていかなくなっているのではないか。

(5) 子どもの伸びやかな成長のため、今のすばらしい公立保育所をずっと守ってほしいがどうか。

新弥生で6カ月児保育を検討中

答 児童課長

(1) 複数の保育士が支え合い対応するメリットもある。

全体スペースの中で、今のような状況で行っている。

(2) 途中入所児童は24人増え、それに対応して8月末までに臨時を10人募集し配属した。

(3) 子どもの数が減れば職員1人のこともあるが、基本的には最低基準の配置【👉】を念頭に置き、対応している。

👉 ゼロ歳児3人に1人、1・2歳児6人に1人等の職員配置を基準とし、例えば(1)のケースは3人配置を基本としている。

答 人事秘書課長

(4) 国の指針に基づき、市職員総数を357人とする定員適正化計画を定めている。

保育士は4月現在98人で、19年に比べ3人増員、23年度採用予定は退職者4人に対し8人で、正規保育士数は減らさず増員し、努力している。

答 市長

(5) ゼロ歳児については、新弥生保育所【👉】は6カ月児から対応していきたい。

市には10保育施設があるが、市民の協力を得て、しっかり運営していきたい。

👉 老朽化に伴い、既存敷地西隣に拡張し、児童館、子育て支援センター等との複合施設を建設中。利用開始予定は保育所の一部が12月中、その他施設は22年度末頃。

◀建設中の新弥生保育所を見学する議員ら【9月14日】

大原　功 議員

20年に市長が行ったポートセールスについて聞く

問 市長が行った海外研修【☞】について聞く。

☞ 20年10月の2週間、市長が赴いたポートセールス(=港湾の各種誘致活動)。
市臨海部の鍋田ふ頭を含む名古屋港PRのため、同港利用促進使節団の一員として、地中海・北アフリカ諸国を訪問した。

(1)（視察）費用が高過ぎるのではないか。

(2)（視察先から）市に輸入されるものは何があるか。

税収1億強 PRは効果ある

答 人事秘書課長

(1) 港湾開発は市の最重要課題であり、第3バース【☞】の整備(促進)には、ポートセールス参加が非常に有意義だったことを理解してほしい。

☞ 21年に国が直轄事業で着工した、鍋田ふ頭に整備中のコンテナターミナル。
水深12mの岸壁を250m建設、クレーンや進入道路等を整備する。
総事業費約264億円、整備期間は27年度までを予定。

答 副市長

(2) 今回、フランスの船会社への訪問が功を奏したと思うが、地中海と日本ルートが9年半ぶりに再開した。

市のメリットは特別とん譲与税が入る。21年度は約1億2千万円で、物流が盛んになれば、背後地の発展にもよい。世界に名古屋港を宣伝することは、大いに効果があると思っている。

窓口で議員同席の事例はあるか

問 市民から、議員と一緒に生活保護の受け付けに来る（人があるという）話を聞いたがどうか。

あるが、決定は左右されない

答 福祉課長

本人の同意の下、同席した例はあった。

しかし、同席で申請や決定が左右されるものではなく、恣意的なものが入り込む余地はない。

問 (5月に)県の植樹祭が飛島村であったが、市長は欠席してゴルフに行った。

(20年の職員清掃を市長が欠席した)先回のときに、市長は二度とこういうことはしないという話だった。

3回目はないか。

答 市長

プライバシーには、一定の距離感がほしいと思う。

他自治体行事の出欠や代理は、わたし自身が判断していけばいいと思っている。

清掃活動は（2日間から選択し）職員の自主参加を求めたものであり、わたしも(1回目に)参加した。

2回目は(欠席し)配慮が欠けていたと自省・自戒している。

議員報酬日当制の市長提案を

問 議員(報酬)の日当制を、他自治体首長は自ら提案している。

日当制を考えてはどうか。

議員提案してはどうか

答 市長

わたしは現行制度がいいと思っている。

議員自らリーダーシップをとり、議員各位とよく協議し、議員提案してもらえば結構ではないかと思っている。

杉浦　敏　議員

コミュニティバスは東部ルート改善、バス停復活を

問　コミュニティバスについて聞く【=関連記事11・12面・☞】。

☞　6月から運行した公共バス。従来の市バスと比べ①運賃有料化(=無料→大人200円)②ダイヤ改正③年中運行、早朝・夜間便設定―等を導入し、路線バス色を強めた。

国の補助が得られる3年間の実証運行中で、バス業務は三重交通株式会社に委託している。

(1)　住民から、①乗り継ぎが不便②バス停が減少③十四山東部ルートが一方通行④近鉄佐古木駅で30分以上の待ち合わせ時間⑤片道200円は高い―などの問題点が指摘されている。

わたしが、7月の利用実績を20年度(月平均)と比較し、分析した結果【☞】をどう評価するか。

☞　①近鉄弥富駅南口の大幅増(月平均73人→906人)②近鉄佐古木駅の増加(月平均57人→278人)③早朝の海南病院行きの要望に一定程度対応④総合福祉センターが減少(月平均745人→423人)⑤十四山総合福祉センターが減少(月平均214人→129人)⑥いこいの里が減少(月平均396人→261人)⑦臨海部の利用が少ない

(2)　アンケートはどのように行うのか。

(3)　住民の声に応える最大ポイントは、①(乗り継ぎを改善し)南北分断の解消②十四山東部ルートを左右両回りにする③廃止されたバス停復活―ではないか。

▶9月に行われたバスのアンケート

9月にアンケートを実施したい

答　**総務部長**

(1)　議員の分析は貴重な意見として参考にしたい。

(2)　9月中に、住民2千人と臨海部企業127社を対象にアンケートを実施したい。

(3)　アンケート調査を元に、改善根拠にしたい。

一部からの苦情ではなく、最善方法をデータ分析し、その方向に持っていきたい。

中学生の平和派遣事業実現を

問　平和行政に対する取り組みを聞く。

(1)　平和市長会議の参加団体は全国45・5%で、県内でも蟹江町、飛島村など16市町村が参加している。

市も参加し、核廃絶に向け努力してはどうか。

(2)　愛西・あま市、蟹江町、飛島村等では広島への中学生派遣を行っている。

市も派遣を実現してほしいがどうか。

23年度から中2全員派遣を検討

答　**市長**

(1)　11年に平和都市宣言を行い、図書館等では原爆パネル展を開催し、平和行政の推進に努めている。

加盟は他市町村の動向も考えながら、今後、前向きの検討課題としていきたい。

答　**教育長**

(2)　将来の国際社会を生きる子どもたちにとって、平和について学習することは大変重要だと思っている。

今後、教育委員会、中学校、PTAと協議し、23年度から中学2年生全員を広島に派遣する方向で検討していく。

渡　邊　　袒　議員

市の稲作を維持する オペレーター育成に尽力を

問

市の農業について聞く。

(1) ①市街化調整区域面積②転作面積③農家戸数④専業農家戸数

(2) 約1、600戸の兼業農家の（農作業を代行するオペレーター［＝以下「OP」］への）委託状況

(3) OPは何組いるのか。

(4) OPになるのに必要な①期間②資金と、③10ａ（＝1反）当たりの収入は。

(5) （市の）農業の現状は、ほとんどが兼業、サラリーマン農家で、実質的に稲作を維持しているのはOPである。

OPの育成に今以上の力点を置いてほしいがどうか。

(6) 市街化調整区域内の農地は、農業以外の利用が制限されている。

採算が合わないのに農地を維持することは非常に難しいがどうか。

組織拡充、育成を図る

答　農政課長

(1)① 3、806haで、そのうち農用地面積は1、645haである。

(1)② 594ha

(1)③ 1、752戸

(1)④ 154戸

(2) （OPにJAを通じて）部分委託する人が600戸320haで、全面委託する人は603戸283haと聞いている。

(3) 法人も含め、弥富地域15、十四山地域6である。

(4)① OP後継者であれば1年、未経験者は3年ぐらいかかると聞いている。

(4)② コンバインや倉庫等、8千万円から1億円近くはかかると聞いている。

(4)③ （必要経費や助成等を加減算し）約2万5千円の収益があるとJAが試算している。

(5) OPの育成は重要だと思っている。

今後はOP組織の拡充と育成、市の助成、アルバイト雇用等、経営の安定化を図り、農業後継者を確保する必要があると考えている。

答　市長

(6) 大規模集団営農化、十四山地区で行われるブロックローテーション【 】は、弥富の農業の一つのモデルだと思う。

同地区は345haの利用を集積し、コスト低減を図っており、市も大きくPRしていかなければならないと思っている。

地域内の水田を数区画に区分し、転作を実施する区画を毎年移す方法。
22年度から始まった戸別所得補償制度は集落営農組織への優遇措置があり、鮫ケ地地区が組織で制度を利用している。

中　山　金　一　議員

坂中地地区の道路整備について聞く

問　道路整備について聞く。

(1) 市道六條鮫ケ地線（＝以下「A線」）歩道設置計画

(2)（A線整備に伴う）坂中地地区の用地買収をどう考えているか。

(3) A線の坂中地第一橋の整備計画

(4) 市道鍋平27号線（＝以下「27号線」）の整備計画

(5) 27号線の坂中地地区の用地買収などの予定は。

橋梁架け替えを23年度着手予定

答　土木課長

(1) 道路整備は23年度より、計画的に整備を進めていく考えである。

坂中地橋は、車道幅員が狭く老朽化しており、橋梁の実施設計などを早期に進めたい。

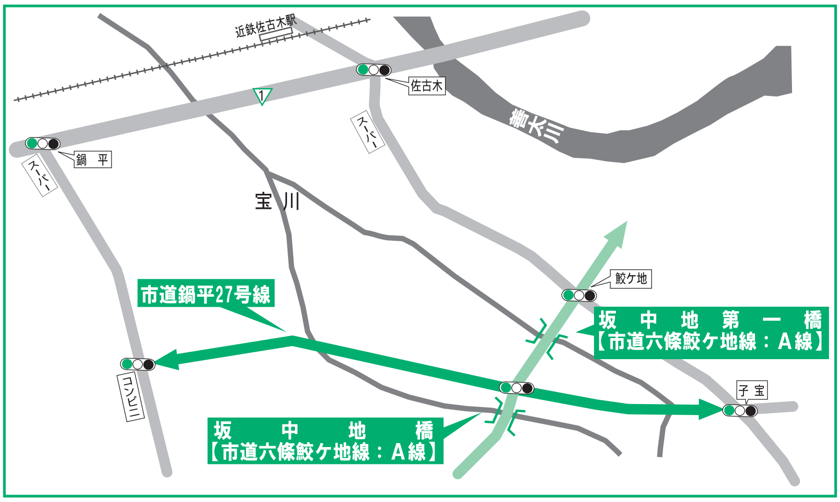
(2) 現在の道路敷地は約8mある。車道6m、歩道2mを区画線で区分する計画であり、（橋梁取り付け個所を除き）用地買収は考えていない。

(3) 現在、宝川の護岸整備が県で計画されている。

歩道付きの橋梁設計を市から要望しており、23年度に橋の架け替えが着手される予定である。

(4)（県が整備する）計画は、両側に3.5mの歩道、車道は15mで、右折レーンを設ける信号交差点部は18mである。

(5) 坂中地地区は今後、整備に向けた検討を行うと（県から）聞いている。



バスにデマンド方式の採用を

問　コミュニティバス【＝関連記事9・12面】を聞く。

(1) 予算が1億3千万円かかっているが、（運行委託先の）三重交通との契約内容はどうなっているのか。

(2) 東部ルートは人口密度が低い。市で臨時職員運転手を採用し、小型バスで地区を細かく回ってはどうか。

考慮に入れて検討していきたい

答　防災安全課長

(1) 22年度分は約1億2、319万円、運行日数284日の予定である。収入は国庫補助金約2、600万円と運賃収入等を見込んでいる。

(2) 有料運行は運行管理等、信頼の置ける会社に運行を任せる必要がある。

乗り合いタクシーや予約制のデマンド方式【☞】も考慮に入れ、今後検討していきたい。

☞ 規定路線外を主に走る乗り合いタクシー方式。事前に電話等で予約し、予約者の自宅や目的地を順次回りつつ、それぞれの目的地で乗降する。

山口　敏　子 議員

公共施設にあるバス停留所にベンチの設置を

問

コミュニティバス【=関連記事9・11面】を聞く。

(1) 土地に余裕があるバス停に、ベンチの設置はできないか。

(2) 公共の場所でも（ベンチの設置は）無理か。

(3) 急行便と普通便のダイヤを組み替え、今まで通っていない所を通る方法もあるのではないか。

(4) 新しく車両を入れ替える場合は、桑名市の公共バスのサイズが(小型で)よいのではないか。

乗り継ぎ拠点は検討を予定

答 防災安全課長

(1) 交通安全上や法の関係があり、設置は非常に難しく、現段階では考えていない。

(2) 乗り継ぎ拠点とか、いろいろな問題で討議されていくと思う。

(3) バス停増設は、極端な場合本数減少につながる場合もあるので、慎重に検討したい。

(4) ９月に乗降調査を行い、実際にどの大きさのバスが適切か判断できる。

それを考慮しながら検討したい。

グッズを利用した金魚のPRを

問

弥富の名産の金魚を次世代まで伝えるため、金魚に関する商品をＰＲしてはどうか。

グッズPRを今後とも頑張る

答 企画政策課長

企画政策課ではストラップ、かばん、子ども向けのシール、クリアーファイルを製作しており、イベント時等に記念品として配布し、全国に向けた市のＰＲを今後とも頑張っていく。

日光川下流浄化センターを見学する議員たち【6月21日】

子どもに下水処理施設の見学を

問

日光川下流浄化センター【☞】を子どもの社会見学に入れてはどうか。

☞ 広域公共下水道の汚水を浄化する県施設。３月末に供用を開始した。

計画処理区域は海部地区内（一部地域を除く）約６千ha、処理人口は約32万人で、21年度までの総事業費は約460億円。上野地内に位置する。

各学校に紹介していきたい

答 教育課長

児童にとって身近な見学先の候補地であり、各学校には紹介していきたい。

堀岡敏喜議員

高齢者の所在確認業務の実態はどうか

問　福祉について聞く。

(1)うつ病やひきこもりなど、実態を把握しているか。

また4月より、認知行動療法に健康保険が適用された。どこで受診できるか、情報周知すべきではないか。

(2)児童虐待への認識と今後の取り組み、また虐待の報告や実態はあるのか。

(3)高齢者所在確認業務の実態はどうか。

(4)地域福祉計画策定の市の現状はどうか。

一人暮らしの居宅を訪問した

答　**健康推進課長**

(1)有病者数を掌握することは非常に困難だが、うつ病の精神通院医療を受ける人は240人ほどいる。

9月にリーフレットを全戸配布し、うつ病から自殺を防止する啓発をした。

認知行動療法は、過去に海南病院に照会したが、行っていなかった。（実施機関が少なく）病院の紹介等は難しいと考えている。

答　**児童課長**

(2)市では18年に要保護児童対策地域協議会を設置し、県、警察等の関係機関と情報を共有し、児童保護の仕組みをつくっている。情報があった場合は、48時間以内の目視確認に努めている。

（要保護対象となったケースは）7月末現在で19件である。

答　**介護高齢課長**

(3)数え年100歳以上の19人は、介護保険利用状況等で所在を確認済みである。

65歳以上の一人暮らし高齢者は、毎年6月に民生委員の協力で居宅を訪問し、所在は確認済みである。

答　**民生部長**

(4)この計画は各自治体が主体的に取り組むこととなっている。

23年度に策定する障害者計画・高齢者福祉計画の中に、地域福祉計画の内容を盛り込んだ計画を策定し、その後必要に応じて策定の検討をしていきたい。

7、8月に行われたエコきっず調査隊

青少年の自然体験学習充実を

問　青少年健全育成の今後の取り組みについて聞く。

(1)海外体験・留学支援策

(2)農山漁村体験プロジェクトのような自然体験学習

各種実施中で拡充の考えはない

答　**教育部長**

(1)現在は実施していない。

各種教室や講座を開催し、青少年の活動機会の充実に努めているところである。

(2)自然体験学習はエコきっず調査隊等で学習機会を提供し、小中学校では宿泊を伴う体験学習、稲作、穀物栽培など、特色に応じた取り組みを実施している。

現在拡充は考えてはいないが、今後は必要が生じたときに適宜見直し、児童生徒の学習力向上に努めたい。

カメラスケッチ やとみフラッシュ!

命を学ぶ

「ウサギとふれあう会」が10月1日、県獣医師会の協力により桜小学校で行われました。

参加した1年生児童は、ウサギを抱いたり聴診器で心臓の音を聞いたりしながら小さな命に触れ合い、命の大切さを学んでいました。

秋を満喫

鮫ケ地地内の畑に10月13日、十四山西部小学校の3・4年児童約50人が訪れました。

地元の市民団体「鮫ケ地コスモス会」が、約1万2千㎡の休耕田にコスモスと黒豆を栽培し、毎年児童を招待。児童らは、満開のコスモスと枝豆の収穫を一度に楽しんでいました。

フェスタでコイ38cm

健康フェスタ2010が10月24日、十四山スポーツセンター等で行われました。

恒例の健康チェックや江戸家猫八さんの講演、駅伝大会のほかに、三ツ又池公園で行われた魚つり大会では、大物賞として38㎝のコイが釣り上げられていました。

PRINTED WITH SOY INK
地球に優しい大豆油を使用したインキで印刷されています。